能登町発展のために

新生能登町議会がスタート！

10月22日に執行された能登町議会議員選挙により、新たに選出された20人の議員による初めての議会（第4回臨時会）が11月8日に行われました。

本会議では、まず議長選挙が行われ、指名推選により新平悠紀夫議員が指名され当選しました。また、副議長選挙は投票で行われ、石岡安雄議員が当選しました。

引き続き、3つの常任委員会と議会運営委員会の委員を選任し、一部事務組合の議員を選挙しました。

その後、町長提出議案2件が提出されました。災害復旧にかかる平成18年度能登町一般会計補正予算（第3号）は原案のとおり可決されました。また、能登町監査委員の選任については、議会議員のうちから選任すべき監査委員として鶴野幸一郎議員が議会の同意を受け、選任されました。

選任された委員会

（◎は委員長、○は副委員長）

◆総務常任委員会（6人）
◎石井　良明　○向峠　茂人
山崎　元英　新平悠紀夫
山本　一朗　菊田　俊夫

◆教育民生常任委員会（7人）
◎宮田　勝三　○奥野　清
久田　良平　鶴野幸一郎
南　正晴　椿原　安弘
酒元　法子

◆産業建設常任委員会（7人）
◎鍛治谷眞一　○河田　信彰
大谷内義一　多田喜一郎
石岡　安雄　志幸　松栄
奥成壮三郎

◆議会運営委員会（6人）
◎菊田　俊夫　○鶴野幸一郎
大谷内義一　奥野　清
奥成壮三郎　向峠　茂人

選出された一部事務組合

◆奥能登広域圏事務組合
議会議員（2人）
大谷内義一　多田喜一郎

◆珠洲市能登町環境衛生組合
議会議員（3人）
山崎　元英　椿原　安弘
酒元　法子

◆奥能登クリーン組合
議会議員（6人）
山本　一朗　菊田　俊夫
奥成壮三郎　南　正晴
河田　信彰　椿原　安弘

◆のと鉄道運営助成基金
事務組合議会議員（1人）
鍛治谷　眞一

◆能登町監査委員（1人）
（議会選出委員）
鶴野幸一郎

議長に新平悠紀夫氏

副議長には石岡安雄氏が就任

新平 悠紀夫［しんひら・ゆきお］
（65歳・宇出津）
芝浦工業大学卒業
職業　会社役員
旧能都町議会議長
宇出津総合病院運営特別委員会委員長（能登町）などを歴任

山並みの木々が紅く染まり、寒さ一段と厳しくなる季節となりました。

このたび議員各位のご同意を受けまして能登町議会議長の要職に就くことになりましたこと、誠に身に余る光栄でございます。

私は、自らの浅学非才を顧みまして責任の重さを一層痛感いたしておりますが、ここに皆さまより選出されましたうえは、能登町の一体化を進め、活力ある町発展のために議会運営を民主的に公正無私の立場を堅持し、最前の努力を尽くす所存でございます。

なにとぞ先輩、同僚の皆さまを始め、町民各位のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

簡単ではありますが就任の挨拶に代えさせていただきます。

能登町議会議長
新平悠紀夫

石岡 安雄［いしおか・やすお］
（53歳・小木）
石川県立飯田高校卒業
職業　酒類販売業
旧内浦町議会副議長
文教常任委員会委員長（能登町）などを歴任

このたび副議長の大役に就任させていただき、身に余る光栄であると同時に責務の重大さを感じております。

議員としての職責を負うことは当然でありますが、議会の名誉と威信を損ねることなく務める覚悟でございます。

今、当町の財政は大変厳しいものがありますが、住民のニーズは多様化し住み良い地方の実現には、この苦しい時期をいかにして乗り越えるかが課題だと思います。

将来、合併の効果を期待し住民の皆さんが「住んで良かった」と思える能登町となるための行政と議会に課せられた試練でもあると考えております。

これからは議長を補佐し、円滑な議会運営は申すまでもなく、より一層活発で開かれた議会を目指し微力ではありますが全力を傾注する所存です。

なにとぞご指導とご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

能登町議会副議長
石岡安雄

シリーズ 人の間に Vol. 6

炭焼きに設計書はない、ずっと手探りを続けている。

炭焼き職人 小箱政治（こばこまさじ）さん（70歳・当目）

「窯に火を入れたら生き物と同じ。温度が高すぎても、低すぎても良い質の木炭はできない」と話す小箱政治さんは、伝統ある柳田木炭の組合長を務めている。

先代、先々代は鍬（くわ）作りの職人だったという小箱さんは、30歳の時に炭を焼いてみようと考え、35歳くらいから本格的な炭焼きを始めた。

「この仕事は自分に合っている」と感じたという小箱さん。周りの炭焼き名人の話を聞いたり、品評会へ出向くなどしながら、自己流で炭焼きの技術を積み重ねた。

炭を焼く窯は山の斜面を切り抜いた小箱さん手作りの窯である。「窯の構造、水気など窯のつくりが木炭の出来を左右する」という。現在使っている窯は平成13年に1カ月を費やして製作したもので一度に60俵（1俵15kg）の木炭を作ることができる。

「炭焼きで一番難しい作業は原木に火を付けるとき。ここで炭の質が決まる」と話す小箱さん。これは窯に火を入れ、乾燥させた原木に火を付けるときの温度が重要ということだ。「一般的に最適といわれている温度はあるが、その時の煙の色、香りも重要な判断材料」という。

「窯の温度が1度下がっても煙でわかる」というその経験と技術が、小箱さんの良質な炭を支えている。

小箱さんの木炭の質は内外に認められている。今年10月に金沢市で行われた「石川の農林漁業まつり」の木竹炭品評会において林野庁長官賞を受賞、その技術の高さを証明した。

現在は、組合長として指導する立場にある小箱さん。「定年退職を契機に炭焼きを始める人が1人でも2人でも出てきてくれれば」と考えている。

「木炭作りには設計書はない。30年以上経験した今でも手探りの作業を続けている」というが「だからこそ『やる気』があれば誰でも出来る仕事」と言い切る。

「昔は人間を見れば炭の出来がわかるといわれた。炭作りには人間性が出る」という。真面目に炭を焼き続けてきた小箱さんに、これからどんな炭を焼きたいのかを聞いた。

「燃料だけを焼いてもおもしろくない。これからはインテリアになる巨大な炭や、花を飾るような色々な形の炭を焼くなど、もっと『遊び心』をもって炭を焼いていきたい」と笑顔で話してくれた。

秋の褒章・叙勲

栄えある受章

国家が功績のある方に対し、その功労を表彰する秋の褒章と叙勲。今年は能登町から２人の方が選ばれました。

『人』と『苦労』が分かる人材を育成したい。

黄綬褒章 興能信用金庫理事長
安宅（あたか） 紀久郎（きくろう）さん
（66歳・宇出津）

47年間の長きにわたり、地域金融業務一筋に尽力してきた安宅紀久郎さん。興能信用金庫理事長就任6年目となったこの秋、黄綬褒章を受章しました。「金庫の全役職員の支えと、なによりお客さまからのご支援のおかげです」と受章に対する感謝の言葉を述べました。

「受章の重みを感じると同時に、身の引き締まる思いです」と実際に褒章を手にして話す安宅さん。これまでに最も印象に残る出来事はと尋ねると「昭和41年に念願だった金沢進出を果たし、16店舗目となった店内で開店時にシャッターが上がり始めたあの瞬間が忘れられません」と当時の苦労を思い出しながら答えてくれました。

安宅さんが地域金融機関として地域の発展に貢献した具体的な内容のひとつとして挙げられるのが、平成16年に創設した「こうのう塾」。人の痛みと苦労が分かる人材育成を目的として開講し、翌年には金沢大学と連携して中小零細企業の若手リーダーなどが参加し好評を呼んだ「地域経済塾奥能登教室」を開くなど、能登の地域振興に積極的に取り組んでいます。安宅さんは、能登の人口減少に歯止めをかけ、地域の活性化を生むような活動を行いたいと考えています。

「地域の繁栄なくして信用金庫の繁栄はありえない。先見の目を持ち現状に甘んじることなく努力していきたい」と話す安宅さん。「私たちの町の信用金庫づくり」を目指して地域経済の活性化に全力で取り組んでいきたいと力強く語ってくれました。

子どもたちと行う奉仕活動がわたしの生きがいです。

瑞宝双光章
川本（かわもと） 昭馬（しょうま）さん
（76歳・宇出津）

「思いがけない受章で胸がいっぱいです」と喜びの表情を見せる川本昭馬さん。昭和28年から38年間教壇に立ち、長年にわたり学校教育の振興に貢献しました。鵜川中学校長を務めたのを最後に教員を定年退職。「今回の受章は職場で忠実に、自分なりにまじめに務めてきたことに対して頂けたのだと感じています」と教員生活を振り返りました。

その間、特に印象に残っていることについて尋ねると「学校にチャイムのない生活、無人購買部を取り入れたことや、子どもたちと一緒に過ごした課外活動です」と話す川本さん。英語科の教員として子どもたちを教える傍ら、青少年赤十字活動に特に力を注ぎました。子どもたちの感性を磨きながら、共に行った奉仕活動など、課外活動に関する思い出は尽きないそうです。

川本さんは現在、各種団体役員として多方面で活躍しています。平成4年には能都町青少年ボランティアグループ「絆」を創設、子どもたちと一緒に給食ボランティアや募金活動など、年間を通じた活動を行っています。また能登北部地域ボランティア会長、町老人クラブ会長を務めるなど忙しい日々を送っています。

今後の抱負を聞くと「子どもたちとの奉仕活動を、わたしの命のある限り続けていきたい」と話す川本さん。「子どもたちは今も昔も変わっていません。役割と責任を与え褒めてあげるべきです」とボランティア活動を通じて触れ合う子どもたちを見て感じることを語ってくれました。最後に「わたしを後押ししてくださったみなさんへのご恩を忘れず、少しずつでも社会に貢献していきたい」と話してくれました。

11月

まちの出来事 Vol.1

能登町民文化祭

文化の香り高い町へ、心を合わせたステージ！

▲勘実穂会の舞踊「おやじの海」

11月4日から5日にかけて、第2回能登町民文化祭が内浦総合運動公園で開催され、展示部門、囲碁大会、お茶席、芸能部門などが各施設で行われました。

内浦体育館での展示部門では、盆栽や絵画、陶芸など延べ700点以上の出品があり、訪れた人は自分の興味のある作品を感心しながら見ていました。

内浦第二体育館で行われた芸能部門では、大正琴や舞踊、コーラスなど21団体延べ約250人が出演しました。出演したみなさんは、日ごろの練習の成果を十分に発揮しようと、心をひとつにして演技をしていました。会場では、演技が終わるたびにたくさんの拍手が送られ、ステージと観客が一体となったすばらしいステージとなりました。

▲美すず民謡会による「最上川船歌」

◀珠山流陽恵津会の「黒田の舞」

幼年消防クラブ防火パレード

11月9日は119番の日！

全国一斉に展開された「秋の火災予防運動」。11月9日には、その一環として幼年消防クラブの防火パレードが行われ、柳田保育所と上町保育所の5歳児28人が参加しました。そろいのハッピに身を包んだ園児たちは、柳田教養文化館前を出発し、拍子木を鳴らしながら地域のみなさんに火の用心を元気に呼びかけました。消防柳田分署前に到着すると、園児たちは出迎えてくれた下分署長を前に「わたしたちは火遊びは絶対にしません」と大きな声で宣言しました。このあと消防車の放水を見学するなど、町を守る大切な仕事について学びました。

消防車に乗り込み、気分は立派な消防士！

供えられた柿をまく氏子のみなさん

柿八講祭り

神道柿を奉納

神道地区で収穫される「神道柿」の収穫祭、柿八講（かきぼっこ）祭りが11月4日に神道の日吉神社で行われました。

神道柿は、小形の実が特徴で味が良く、古くから名物とされてきました。祭りは、氏子のみなさんが各家で収穫した神道柿を渋抜きして持ち寄り、祭壇に供えてから神事が行われます。

神事が終わると、氏子らは供えられた柿をまき、それぞれ拾って持ち帰ります。

昔は家々に植えられて、たくさん収穫されていたという神道柿も、今では年々減ってきているということでした。

海上保安庁長官表彰伝達式

灯台は海の道しるべ

灯台記念日として制定されている11月1日。毎年この日には海上保安庁の業務に協力のあった団体や個人に対し表彰が行われています。能登町内にある陸続きではない灯台の点検や巡回、また緊急時などの見回り用にと、20年間にわたり巡回用船舶を提供した県漁業協同組合能都支所の積極的な協力に対し、海上保安庁長官表彰が贈られました。能都庁舎で行われた伝達式には、漁協能都支所参事の渡 誠さんが出席し、七尾海上保安部の篠原部長から「海の安全に対しての理解に感謝します」という言葉と供に感謝状が贈られました。

篠原部長から感謝状を受け取る渡参事（写真左）

国定教科書を朗読する清水寛生くんと天幸佐織さん（鵜川小5年）

第104回久田船長碑前祭

古里の英雄を偲ぶ

『明治36年10月29日、青森・函館間を結ぶ連絡船「東海丸」の船長であった久田佐助（1864年鵜川に生まれる）は、函館を目指して津軽海峡を操船していた。途中、ロシアの貨物船プログレス号と衝突、久田船長は乗客乗員を助けるため、一人船に残り汽笛を鳴らし続け、船と共に海に沈んだ』

久田船長のこの勇気ある行動は、海員の鏡と讃えられ、当時の国定教科書に掲載、文部省唱歌となりました。今年で104回目を迎えた碑前祭は10月30日に行われ、鵜川小学校・中学校の児童生徒や関係者らが、郷土が生んだ英雄を偲びました。

11月

まちの出来事 Vol.2

人権擁護委員感謝状授与・委嘱状伝達式

あなたの人権を守るために

住民の相談役として活動する人権擁護委員を、２期６年間にわたり務め活躍された石岡敏子さんへの感謝状授与式と、新谷悦子さんへの委嘱状伝達式が 10 月 26 日、能都庁舎で行われました。感謝状が贈られた石岡さんは「後任をお願いしますという気持ちです」と話し、新たに法務省からの委嘱状を受けた新谷さんは「誠心誠意努めていきたい」と今後の抱負を語りました。持木町長は石岡さんに「今後も陰ながら力になって欲しい」と話し、新谷さんには「今日という日を機に、今後のご活躍を期待します」と激励しました。

退任された石岡さん（写真左）と新しく委嘱された新谷さん（写真右）

一番遠くに風船を飛ばせた人にはバルーンアートのご褒美が

子ども会連合会 子ども大会

風船でたくさん遊んだよ！

能登町子ども会連合会が主催する子ども大会が 11 月 18 日に柳田体育館で行われました。町内の子どもたちが集まり、体験活動を行うことで、お互いを思いやる心を育むことを目的に実施しているこの子ども大会。今年は、風船を使ったバルーンショーやバルーンゲームが行われ、会場には約 200 人の子どもたちが集まりました。

福井県のバルーンアーティスト辻下純子さんがピエロに扮し、子どもたちと一緒に風船を使って動物を作ったり、ゲームをしたりと子どもたちを楽しませていました。

鵜川 いどり祭り

今年の餅を笑い飛ばし、来年の豊作を祈願する

▶古式ゆかしく進められる神事。来年はどんな「いどり」が飛び出すのでしょうか

▼大鏡餅を持ち上げ「何度見ても悪い餅は悪い」といどります

鵜川菅原神社の新嘗祭、いどり祭りが 11 月 7 日に行われました。「いどり」とは、「けなす、悪口を言う」という意味で、当番が作った餅をけなすという祭りです。この日もたくさんのカメラマンや地元の人が「いどり」を聞きに集まっていました。直径１．２メートルの大鏡餅の拝見では、「薄くて割れそうだ」とか「反り返っている」などといどります。いどるたびに回りから笑い声が聞かれ、最後は宮司が納めて来年の当番が餅を持ち帰ります。

餅をけなすことにより、一年を笑い飛ばし、来年はよい餅ができるようにと豊作を祈願するこのいどり祭りは、古いしきたりを強く残す祭事としてとても貴重なものとなっています。

「音楽の集い」

音とふれあい音を楽しむ

10 月 24 日、町内の小学 5 年生 184 人が松波小学校に一堂に会して「音楽の集い」が行われました。この日のために 9 月から練習を重ねてきたという児童たちは、素敵なハーモニーで合唱したり、みんなで心をあわせて合奏したりしました。

また招待演奏として、李（り） 彩霞（さいか）さんによる「二胡」の演奏が披露されました。児童たちは、李さんの奏でる二胡独特の優しい音色に聴き入っていました。この「音楽の集い」で、音楽を表現すること、聴くことの楽しさを感じた児童たち、これからも音楽に親しみ、豊かな心を育んでください。

心をひとつにして歌う児童たち

柿の収穫を体験した柳会卓球クラブのみなさん

能登町モデル観光農園設置協議会

体験農園から農業の活性化を

町内で農園を経営する団体と能登町で組織する「能登町モデル観光農園設置協議会」は、体験農園・観光農園をとおして町の農業を活性化しようと昨年設置されました。

今回、協議会の農業体験ツアー受入事業の一環として、10 月 27 日に柳会卓球クラブ（宇出津）のみなさんが国重の山岸かき農園を訪れ、柿の収穫を体験しました。また 11 月 8 日には、松波保育園の園児らが鶴町の西出牧場を訪れ、乳牛の搾乳などを体験しました。協議会では、今後も魅力的な体験ツアーを企画し、町内外にアピールしていくとのことです。

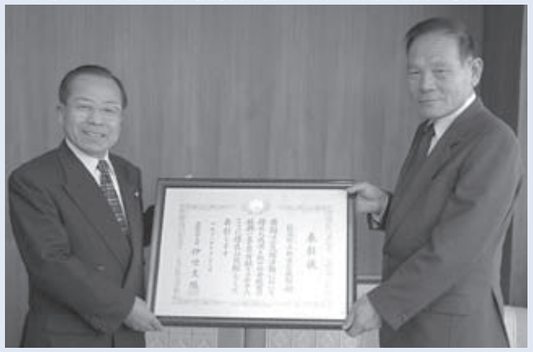
珠洲焼窯跡発掘調査現地説明会

中世の珠洲焼窯を発掘

今年８月から行延地区で進められていた、町内における珠洲古窯跡の分布調査。その調査の結果 14 世紀後半から 15 世紀前半に操業されたとみられる半地下式の珠洲焼窯跡の本体部分が検出されました。10 月 29 日には現地説明会が行われ、ドーム型に作られた天井部分が崩落した痕跡や、窯の焚き口付近から珠洲焼の破片が出土したことなどが説明されました。この遺跡は珠洲焼窯が存在した南限ではないかと推測されています。また、同時期に窯に関連したなんらかの施設として使われたとみられる遺構も検出されました。

窯の本体部分について説明する真脇遺跡縄文館の可児学芸員

素晴らしい栄誉に輝き教育長に喜びを伝える蔵屋館長（写真右）



秋吉公民館が優良公民館表彰を受賞

地域に支えられ大臣表彰

第 59 回優良公民館の表彰式が 10 月 26 日に東京都で行われ、秋吉公民館が文部科学大臣表彰を受賞しました。伝統行事「アマメハギ」をいかした地域づくりの拠点として、また子どもからお年寄りまでが一緒に集い、交流を深め合える場所として、地元に根ざしたさまざまな活動が認められ今回の受賞となりました。10 月 30 日には、秋吉公民館長の蔵屋建治さんが町教育委員会を訪れ、石井教育長に受賞報告を行いました。蔵屋館長は「地域住民のみなさんからの温かい支援のおかげです」と感謝の心を述べました。